



第9回日中省エネルギー・環境総合フォーラム

本社:〒523-8555 滋賀県近江八幡市北之庄町908 TEL(0748)32-5111(代) FAX(0748)32-3339 / 東京支店:〒107-0052 東京都港区赤坂9-1-7 TEL(03)5772-6073(代)

海外事業



中国 日吉は、アジアの国と地域が抱える環境課題に目を向けながら、改善に向けて協力できる機会への積極的な参加や取り組みを続けています。

「第9回日中省エネルギー・環境総合フォーラム」参加 2015.11.28～2015.11.29

本フォーラムは、日中のエネルギー・環境における官民プラットフォームとして2006年以来両国で交互に開催されています。



今回は、日本の経産相や環境相を始め約750名の官民関係者(日本側470名、中国270名)が参加。26件の協力プロジェクト文書が交換されました。

フォーラムにはパネル展が併設され、15社がブースを出展。日吉も進行中の事業と社会貢献活動について展示を行い、日中官民関係者にアピールしました。

北京雪迪龍科技股份有限公司(SDL社)^{*1}と協力プロジェクト文書を交換

日吉は昨年引き続き、SDL社とダイオキシン生物検定法実験室の能力建設^{*2}に関する覚書を締結。29日のフォーラムで、日中両国の大臣立会のもと協力プロジェクト文書を交換しました。

日吉はSDL社との業務提携も視野に入れており、中国において公定法として検証されているケイラックス(中国名:科樂世[®])生物検定法を用いたビジネスを検討しています。



▲経済産業省 副大臣なども、参列されました。

※1… 2001年に設立され、環境モニタリング事業、工業プロセス分析測定事業、計測機器保守点検維持管理サービス事業、環境データベース化事業、計量証明事業等を展開。現在は、中国の環境モニタリング市場において計測装置製造販売ナンバーワンのシェアをもつ株式上場企業です。

※2… 中国では、急速な経済成長に伴いダイオキシン問題が深刻化。日吉は、長年に渡る生物検定法の経験と実績をもとに、ダイオキシン生物検定法実験室の能力建設について協力し、汚染対策への寄与をめざしています。

湖南省との交流事業について 2015.11.27

湖南省師範大学の教師2名と大学附属中小学校の教師4名、そして中学生2名が日吉を訪れ、環境総合サービス技術と社会貢献活動について学びました。教育現場の関係者や学生が、水環境を主題に、それぞれの立場での学習や体験に基づく環境教育授業計画の作成を目的としています。本事業はILEC^{*}が採択された「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」の一環として日吉が受け入れを行いました。



※ILEC(国際湖沼環境委員会)は、世界の湖沼環境の健全な管理とこれと調和した持続的開発の在り方を求めて国際的な知識交流と調査研究推進を図る機関です。

社会貢献



「環境美化の日」環境美化活動 2015.12.1

12月1日は、滋賀県がクリーン条例で定めた「環境美化の日」。県民や事業者がごみの散乱防止について理解と認識を深め、環境保全活動への参加意識を高めることを目的としています。毎年行われる環境美化活動に日吉から新入社員が参加。多くの参加者とともにその意義を学びました。



チャリティバザー「カレンダー」・「手帳」市 2016.1.9～2016.1.10

フォレオ大津一里山において、淡海フィランソロピーネット第3回チャリティバザー「カレンダー」・「手帳」市が開催されました。会場では会員企業・団体において不要となったカレンダーなどを販売。売上金はリサイクルプランターや植物栽培キットの購入に充てられ、環境・福祉学習の推進を目的に、県内の小学校へ寄贈されます。





インターンシップ

地域に密着し、固有の環境課題に取り組む企業モデルとして注目される日吉には、毎年アジアの各国から大学生や大学院生が研修に訪れます。



京都大学-清華大学環境技術共同研究教育センター※1研修生来訪

2015.11.13

研究・教育活動：環境技術に関する技術研修として研修生を受入れ
来社：中国清華大学李炳准教授および博士課程3名、修士課程3名、マレーシアUKM大学の学生4名

毎年恒例となりました同センターから研修生への環境技術研修を行いました。
今年は中国・清華大学の学生・教授6名に加え、マレーシア・UKM大学の4名が研修を受けました。
実サンプルを用いた水道水中の揮発性有機化合物(VOC※2)の測定実習を行い、授業とは異なる現場での測定や作業などを体験していただきました。

※1：2005年、京都大学大学院工学研究科と中国広東省にある清華大学深圳研究院生が共同で設立、多くの研究・教育活動を活発に実施。
※2：Volatile Organic Compoundsの略、揮発性有機化合物の総称



ACPプログラムシンポジウムへの参加

2015.11.19



ACPプログラムは日本とマレーシアの流域管理に関する活動で、2011年4月に開始されました。
多くの水環境問題を解決し、リスク評価や流域管理を考案してきた日本の知識と経験をマレーシアの研究者と共有し、新たに発生する課題に対し解決策を見いだそうとするものです。
京都大学桂キャンパスで行われた最終シンポジウムでは、5年にわたる研究活動の成果が発表されました。
日吉にとってはマレーシアの研究者との有益な交流機会となりました。



さくらサイエンス事業 インドNITTE大学生訪問

2015.12.17

立命館大学から、「環境分野のグローバルリーダー」をめざすインドのNITTE大学の学生17名と立命館大学の学生4名が、日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」の一環として日吉を訪れました。
同プランは、未来を担うアジアと日本の青少年が科学技術の分野で交流を深めることをめざしており、アジアと日本の科学技術の発展に貢献することを目的としています。
日吉の環境に対する理念や世界に広がる事業を紹介し、グローバル環境企業としての姿勢や努力、技術力や研究開発などの在り方について学んでいただきました。



国際即戦力育成(共創促進)インターンシップ ビジネスモデルコンペティション参加

2015.12.21

10月から3か月間、ベトナム・CTCTT*の研修生2名を受け入れました。
二人は自国の課題であるダイオキシン問題を解決するためのダイオキシン類測定技術の研修を修了しました。
HIDA東京研修センターで12月21日に開催された「ビジネスコンペティション」では、本事業への参加者5カ国・11名がそれぞれ、研修終了にあたり、今後自国のイノベーターとしての活躍をめざし、それぞれが研修内容及び新規ビジネスモデルについて発表しました。
残念ながら日吉で研修を受けた2名のベトナムでのダイオキシンラボ設立等の提案は表彰されませんでした。今後、研修で学んだことを活かし、ベトナムで活躍されることを期待しています。

※Center for Training and Consultancy and Technology Transferの略



表彰

琵琶湖博物館より感謝状賜る

2015.12.2

琵琶湖博物館のリニューアルに支援を行なった企業への感謝状贈呈式が行われました。
日吉がサポートした「ピワコオオナマズ」の水槽には、日吉の名盤が掲げられる予定です。



- 用紙：琵琶湖の環境保全活動を支援する寄付金付びわ湖環境ペーパー 適切に管理された森林の木材を利用した FSC® 認証用紙
- インキ：大豆油インキを含む植物油インキ
- 印刷：有害な廃液を排出しない水なし印刷
- 製造、廃棄に発生する CO₂を滋賀県内の排出削減事業者のクレジットによりカーボンオフセット済
- CO₂排出量：169.874kg/3,000部